

★ 今月の星もよう ★

8月中 旬の夜9時頃、南の空の高くには《夏の^{なつ}大三角》が見えています。《夏の^{なつ}大三角》は、3つの1等星（「はくちょう座」のデネブ、「こと座」のベガ、「わし座」のアルタイル）を結んでできる、夏の夜空の目印です。「はくちょう座」は、十字形に並んだ星を、翼を広げて飛ぶ白鳥に見立てた星座で、デネブは「はくちょう座」の尾に位置します。デネブはアラビア語で「めんどりの尾」を意味する言葉の「尾」を意味する部分に由来する名前です。このため、「くじら座」や「いるか座」、「わし座」などの他の動物の星座でも、星の名前の一部に「デネブ」という言葉が使われている例があります。「こと座」は、ベガのすぐ東側の星と、その下の平行四辺形に並ぶ4つの星を、竪琴の形に見立てた星座で、ベガはアラビア語で「降り立つ鷲」という意味です。「こと座」なのに鷲とは不思議に思われるかもしれませんが、ベガを頂点としたVの字を横倒しにした形「>」を、翼をたんで降りてくる鷲の姿に見立てたことに由来します。「わし座」は、「こと座」の南に位置し、アルタイルを中心とする周りの星を「翼を広げて空を飛ぶ鷲」に見立てた星座で、アルタイルはアラビア語で「飛ぶ鷲」という意味です。ベガとアルタイルは、前々回に紹介したとおり、ベガが七夕の「織姫」、アルタイルが「彦星」として親しまれていますが、天の川を挟んで向かい合う位置にあるため、世界各地で夫婦などに見立てた、対になる星として考えられています。



図はステラナビゲーター11を用いて作成

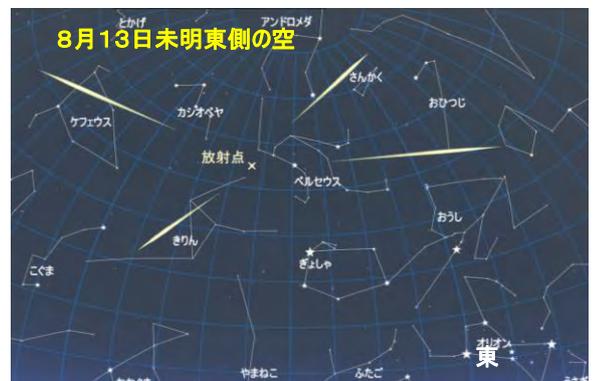
★ みなみのかしぼし(南の舵星) 【星の和名のお話】

「さそり座」のすぐ東に位置し、星の並びで目を引くのが、「北斗七星」を小さくしたような「南斗六星」です。「南斗六星」は「北斗七星」と同様に、その形が杓に例えられ、海に面した北陸や瀬戸内の地方では、和船の舵に見立て「舵星」と呼ばれました。富山県の氷見地方では「北斗七星」と「南斗六星」を、「北の舵星」「南の舵星」と言い、石川県の能登地方では「北の大舵」「南の小舵」と呼んでいたそうです。



★ ペルセウス座流星群が極大(※)!

流星(流れ星)は彗星の放出した塵が地球の大気に衝突して光る現象です。今年のペルセウス座流星群は8月13日のお昼10時頃に極大となります。自立って多くの流星を見ることができるのは、11日の夜~13日の夜までの3夜ほど。13日の夜明け近くに最も多くの流星が見られ、予想では1時間に30個程度です。今年の極大の頃は、月明りが明るい(12日が満月)ので、目で見える流星の数が少なめですが、明るい流星も出現するので、空の広い範囲を見わたすようにして、観察してみましょう。



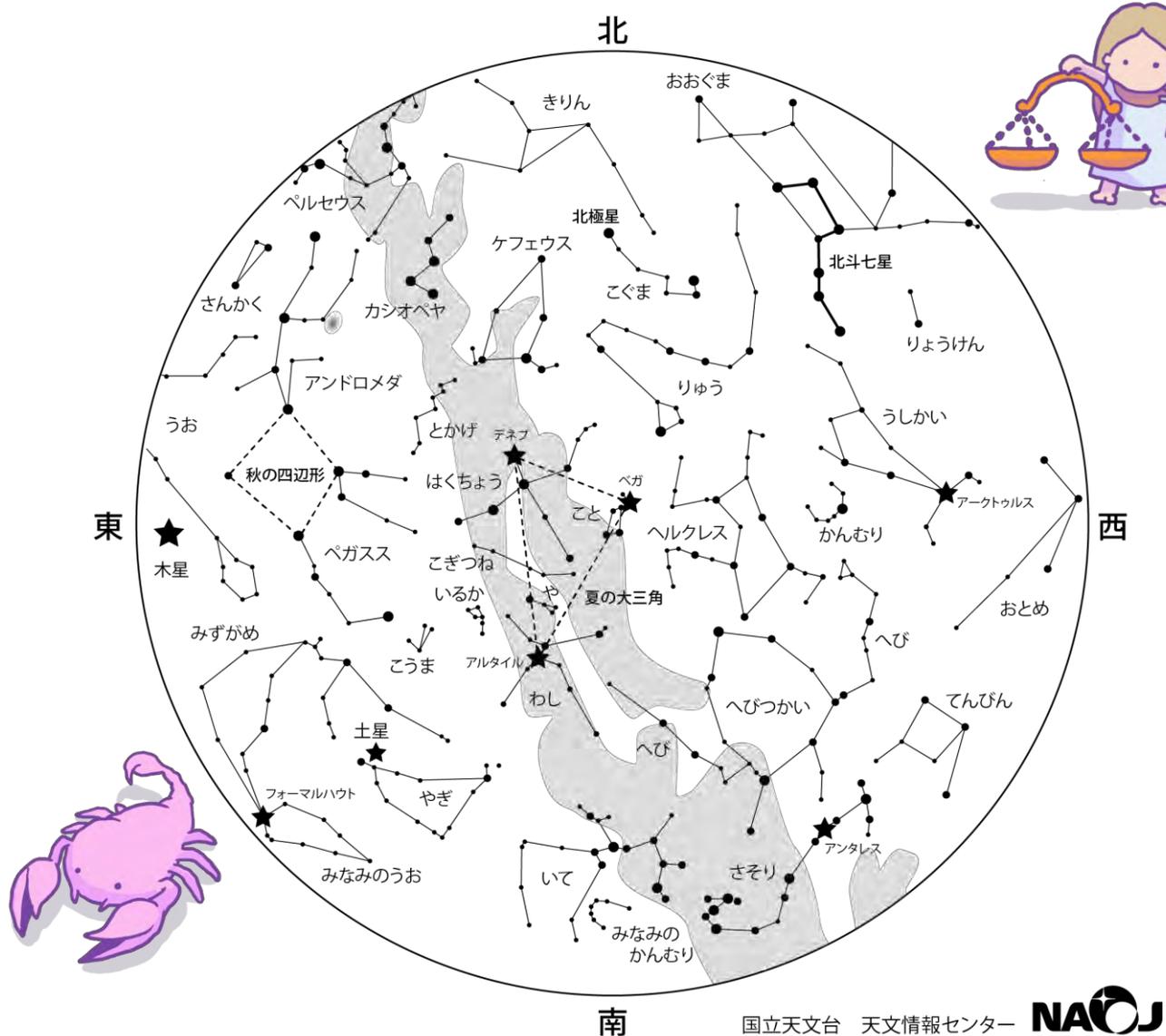
※ 流星群で最も多くの流星が降ること(またはその時期のこと)を「極大」と呼びます。

★ 8月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★

★ プラネタリウムのお休み 8/1(月)、8(月)、12(金)、15(月)、17(水)、22(月)、29(月)

★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

8月上旬午後9時30分頃の星空



国立天文台 天文情報センター **NAOJ**

★ 8月上旬の主な天文現象

2日(火)	火星と天王星が接近	12日(金)	月と土星が並ぶ、○ 満月
4日(木)	旧七夕	13日(土)	ペルセウス座流星群が極大
5日(金)	● 上弦	15日(月)	月と木星が接近、土星が衝
7日(日)	立秋		

★ 国際宇宙ステーション(豊川での主なデータ 8/1~15) ※下記時刻は、予想値です

◇ 8月 1日(月)	[見やすさ ◎]	21:12 北西	~	21:17 東南東
◇ 8月 2日(火)	[見やすさ ◎]	19:24 北北西	~	19:30 東南東
◇ 8月 3日(水)	[見やすさ ◎]	20:12 西北西	~	20:16 南
◇ 8月 4日(木)	[見やすさ ◎]	19:23 北西	~	19:30 南東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。